

【論文】

近世奄美における墓石の受容 — 沖永良部島と徳之島の比較から —

関根 達人

1. 問題の所在

今日、多くの人々が墓といえばまず初めに墓石を連想するほど、墓石は我々日本人になじみ深い。墓石が全国的に普及するのは江戸時代であり、古い墓地に行けば大抵は江戸時代の墓石を目にすることができる。中世の「墓石」は供養を主たる目的とするのに対して、近世の「墓石」は供養塔としての性格を維持しつつ次第に墓標としての性格を強めていく。江戸時代に始まる我が国の墓石文化は、世界の葬墓制でも独特の位置を占めている。北は松前藩から南は鹿児島藩まで、墓石は全国各地で普遍的にみられる一方、幕藩制が及ばなかった蝦夷地や琉球国では墓石（＝石製墓標、以下墓標と表記）は極めて稀であり、近世日本に特徴的な文化現象の一つといえる（関根2018）。

筆者は蝦夷地に残る墓標などの近世石造物から和人の蝦夷地進出の実態を論じた（関根2013）。蝦夷地の近世墓標は全て死亡した和人のために和人が建てたもので、先住民であるアイヌ民族は仏教も石製墓標も受容することはなかった。その意味で、蝦夷地は基本的には「非墓石文化圏」である。蝦夷地同様、近世日本国と「異国」の間に位置する「異域」であった琉球国もまた「非墓石文化圏」といえる。琉球国には埋葬施設の上に墓標として墓石を建てる伝統はなく、死者の情報は墓標ではなく、墓の手前や墓室内に置かれた石製墓碑、または石厨子や厨子甕の銘書（ミガチ）に記された。

「非墓石文化圏」であった蝦夷地や琉球国の葬墓制は、遺体の処理方法や、それと関連する埋葬法、埋葬施設の点でも近世日本国とは大きく異なる。広く知られるように、琉球の葬墓制を最も特徴づけるのは、風葬や洗骨・再葬である。それらは、先島諸島から奄美群島まで広く琉球弧に見られる。一方で薩摩島津氏の琉球侵攻により、慶長14年（1609）以降、鹿児島藩の直接的支配下に組み込まれた奄美は、琉球国と異なり墓標を受容した。奄美の葬墓制は、琉球文化に由来する風葬や洗骨・再葬の伝統をベースとし、その上に墓標をはじめとする近世日本の葬墓制が重なる二重構造を特徴とする。近世奄美の葬墓制は、どこもこの二重構造を基本とする点では共通性がみられるが、埋葬施設・蔵骨器・墓標など墓の様相は島ごとに大きく異なる。

沖縄では米軍関連施設の返還などに伴い、那覇市や浦添市を中心に古墓の発掘調査事例が急増したことを受け、近年、古墓に関心が集まっている（沖縄県考古学会2013、沖縄県立博物館・美術館2015）。それに対して奄美群島では古墓の発掘調査は、これまで大島の笠利町和野トフル墓（鹿

児島県教育委員会1988)と徳之島の伊仙町中筋川トゥール墓(伊仙町教育委員会2010)にとどまっており、沖縄に比べ考古学的情報が圧倒的に不足している。

奄美の葬墓制はベースとなる風葬・洗骨・再葬が注目され、民俗学的アプローチを主体として、琉球文化圏の葬墓制の枠組みの中で語られる傾向が強かった(恵原1979、上野1981、酒井1987、平敷1995、安陪2012など)。近年は、火葬の導入や過疎化に伴う葬墓制の変化を論じた民俗学的研究が多くみられる(福岡2000、加藤2010、福ヶ迫2014、兼城2020など)。

一方、近世奄美の古墓の研究は、遺骨や蔵骨器を納めた埋葬施設を中心に行われてきた(小野1968・89、三島1969、観光資源保護財団1972、小野・長澤・増田1973)。奄美の近世墓標については平敷令治氏が奄美大島の瀬戸内町や徳之島伊仙町上面縄の事例を紹介しているに過ぎない(平敷1995)。本格的な検討がなされていないため、墓標の増減・変遷・島ごとの地域差といった基本的な情報を欠いていた。

その一方で、過疎化により個人墓から集落単位での共同墓へ移行が著しく進行した奄美大島の宇検村では、近年、個人墓の整理(「墓じまい」)に関連して墓標の調査が行われている(宇検村文化財活性化実行委員会2015・2016)。また沖永良部島では、和泊町と知名町の両町とも有識者による古墓検討委員会を設置し、埋蔵文化財公開活用事業の一環として、県や町の文化財に指定されている古墓の発掘調査や町内の古墓の分布調査を進めている(知名町教育委員会2019、和泊町教育委員会2019)。さらに2019年には和泊町ではシンポジウム「沖永良部のトゥール墓」や和泊町歴史民俗資料館の「えらぶの古墓展」が開催され、知名町も一般向けに町内の代表的な4か所の古墓を紹介したパンフレット「古墓めぐり」を製作するなど、近年、島内の古墓に注目が集まっているが、古墓に伴う墓標にまではまだ関心が及んでいない。

筆者は2019年に奄美大島と徳之島、2020年に喜界島・沖永良部島・与論島をめぐり、近世墓標の確認を行った。その結果、奄美大島・徳之島・沖永良部島ではある程度近世墓標の造立が行われるのに対して、喜界島・与論島では近世墓標の造立が低調であったことが判った。奄美群島のなかでも北部に位置し、奄美大島にも近い喜界島で墓標の造立が低調なのは、他の奄美群島に比べ蔵骨器として銘文を有する「テラ」と呼ばれる家(御殿)形の石厨子の比率が高く、それが墓標や墓誌の代わりとなっていたためと推測される。また与論島に近世墓標がほとんど見られないのは、与論島が奄美群島の南端に位置し、近世期においても沖縄同様「非墓石文化圏」であったからであろう。

平成15年(2000)に初めて島内に火葬場が設けられた与論島で近年まで洗骨・再葬が行われ続けていたように、本来、葬墓制は最も保守的で変わりにくい文化現象の一つといえる。近世奄美では大多数の人々が琉球の文化的要素である風葬や洗骨・再葬を継承する一方で、ヤマトの文化に由来する墓標を受容したのはごく一部の人にとどまっている。近世奄美の墓制を通して、ベースとなる琉球文化と新たに受容されたヤマト文化の文化接触の実相や、島津氏の支配下にあった近世奄美の社会構造の解明が期待できる。そのためにはヤマト文化を象徴する墓標が奄美群島でどのように受容されたかを明らかにする必要がある。

本論では沖永良部島と徳之島を例に、これまで実態不明であった奄美の近世墓標の実態を明らかにしたうえで、琉球文化とヤマト文化の文化接触や近世奄美の社会の在り方について考察する。

2. 沖永良部島と徳之島の古墓

(1) 沖永良部島の古墓

沖永良部島は面積約94km²の隆起珊瑚礁の島で、古墓の多くは石灰岩を浸食する「マタ」と呼ばれる河川沿いの崖地に分布する。鹿児島県教育委員会が昭和55年度に行った民俗調査では、島内で107ヶ所の「風葬墓」が確認されている（鹿児島県教育委員会1981）。沖永良部島の古墓に関しては近年、先田光演氏が、奄美群島の他の島や沖縄の古墓と比較しつつ名称を整理するとともに、民俗学的考察を加えている（先田2019）。

沖永良部島の中世・近世の古墓は、A：自然の洞窟や岩陰を利用した墓、B：人工的に崖を横に掘り込んだ「掘り込み式崖墓」、C：埋葬空間の周囲を石で方形に囲んだ「積石墓」、D：平地の墓に分類できよう。主体をなすAとBには、洗骨・再葬墓（図1-1～4）と、地元で「フジキヤマ（フジチャマ）」と呼ばれる再葬の形跡が認められない一次葬（風葬）墓（図1-5）がある。

Bの掘り込み式崖墓は「トゥール墓」と呼ばれる¹⁾。トゥール墓は崖面を矩形に掘り込んで玄室を設け、入口を石積みや木製の扉で閉塞しただけの小規模なものから、前面に石積みの袖壁で区画された前庭を持つもの、さらに前庭の入口に石門を設けたり、前庭部が二区画もある大型のものまでバラエティーに富む。これらのトゥール墓には、県の史跡に指定されている世之主の墓（図1-1）をはじめ、屋者琉球式墳墓（図1-2）、屋子母セージマ古墓（図1-3）、チュラドゥール、赤嶺アーニマガヤトゥール墓、花雀ニヤート墓のように様々な意匠を凝らした形態がみられる。

Cの積石墓は、後蘭孫八の墓（図1-6）や、近くのノロの墓と、世之主が最初に葬られたと伝えられるウファチジの3ヶ所が確認されている。

近世墓標はトゥール墓の前庭部や前面、平地の墓に多く見られるが、屋子母セージマ古墓ではトゥール墓の玄室内にも建てられている。

蔵骨器は陶製の壺甕を主体とし、「ウル石」と呼ばれる円柱状の珊瑚石の内部を削り抜いたもの、陶製の赤焼御殿型厨子と続き、石厨子はほとんど認められず、木製厨子の痕跡も確認できない。陶製の壺甕は、薩摩苗代川系の甕や沖縄産のボージャ厨子を主体とし、褐釉四耳壺も見られる。沖縄と異なりボージャ厨子の蓋の内面にはミガチは見られない。

(2) 徳之島の古墓

鹿児島県教育委員会が昭和55年度に行った民俗調査では、島内で53ヶ所の「風葬墓」が確認されている（鹿児島県教育委員会1981）。その後、徳之島では義憲和氏が中心となって、島内の古墓の分布調査が行われている（徳之島三町文化財保護審議委員連絡協議会1993）。

沖永良部島と同様、徳之島の中近世墓にはA：自然の洞窟や岩陰を利用した墓（図2-1・2）、



1. 世之主の墓（和泊町内城）



2. 屋者琉球式墳墓（知名町屋者）



3. 屋子母セージマ古墓（知名町屋子母）



4. 神窪ニヤークグバカ（和泊町皆川）



5. 住吉の古墓群 6 号墓（知名町住吉）



6. 後蘭孫八の墓（和泊町後蘭）

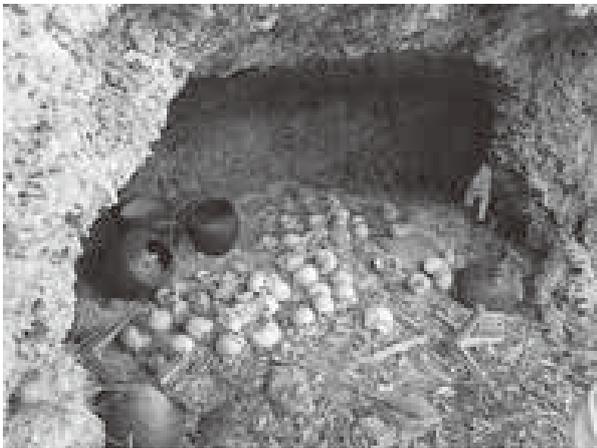
図 1 沖永良部島の古墓



1. ネーマトウル墓（伊仙町中山）



2. 面縄古墓群（伊仙町面縄）



3. 西阿木名洞窟墓（天城町西阿木名）



4. 手々按司墓（徳之島町手々）



5. カンニンウシシギヤ墓（徳之島町神之嶺）



6. 兼久あがれ墓地（天城町兼久）

図2 徳之島の古墓

B：掘り込み式崖墓（図2-3）、C：「積石墓」（図2-4・5）、D：平地の墓（図2-6）が見られる。近世墓標はAやBの前面、Cの内部、Dに認められる。

蔵骨器は苗代川系の甕を主体とし、褐釉四耳壺が次に多い。天城町加万答古墓群や西阿木名洞窟墓では木製厨子も目立つ。石厨子・陶製御殿形厨子は見られるが、ボージャー厨子は稀である。

3. 沖永良部島と徳之島の近世墓標

(1) 沖永良部島の近世墓標

沖永良部島ではえらぶ郷土研究会会長の先田光演氏により島内の近世墓標の悉皆調査が行われているが、その成果に関しては、先田氏の論考に一部使われるにとどまっていた（先田2019）。今回、先田氏より未報告のデータの提供と使用の許可を得ることができた。本稿で使用する沖永良部島の近世墓標に関するデータは基本的に先田氏の調査資料に基づき、それを筆者が整理・分析したものである。

沖永良部島では、97基の近世墓標が確認されている（表1）。そのうち造立年が明記されているのは4基しかなく、残る93基については、没年のうち最新年をその墓標が建てられた年号として扱った。沖永良部島では瀬利覚の墓地にある康熙10年（1671）と同37年の没年が刻まれた墓標（墓標番号2）を除いて、全て和暦が使われている。最古の墓標は、知名町屋者にある元禄3年（1690）の紀年銘を有する五輪塔（表1の墓標番号1）である²⁾。

【墓標数と被供養者数】 墓標数と墓標に記された被供養者数について10年毎に集計し、変遷を検討した（図3）。なお、江戸時代の被供養者数は、近世墓標97基に記された181名と、江戸時代に死亡し明治以降に建てられた10基の墓標に記された19名をあわせた総勢200名となった（表2）。1基の墓標で平均約1.8名が供養されている計算になる。沖永良部島では、1690年代から墓標が建てられ始め、1740年代にややまとまった数造立されるものの、その後も幕末に至るまで、ほとんど増加が見られないことから、墓標が広く普及することはなかったと考えられる。

【墓標型式】 沖永良部島で見られる近世墓標の型式を図4に示した。櫛型が最も多く、櫛型に近いが頭部が平坦な平型が次に多い。他に頭部に2箇所刻みをもつ変形櫛型、駒型、角柱形、板碑形、五輪塔、不定形などがあり、角柱形は頭部の形状により、丘状・平頭・尖頭に細分される。沖永良部島では、他の奄美群島に見られるような家形の墓標は確認されていない。半世紀単位で墓標形式の変遷について検討した（図5）。板碑形と五輪塔は18世紀に限られ、19世紀には見られない。反対に変形櫛型と角柱形は18世紀前半までは見られず、18世紀後半に出現する。19世紀後半には平型が櫛型を上回るようになるとともに、櫛型と角柱形が拮抗する。

【墓標の大きさ】 棹石の高さと横幅を用いて、墓標の大きさを検討した（図6）。沖永良部島では、高さ40～100cmで幅20～40cm程度の大きさの棹石をもつ墓標が多く、それらが全体の約8割を占める。棹石の高さが100cmを超す墓標は9基あり、久志検の与人職の平安統が祖父で喜美留の与人の池久保とその妻とおぼしき女性のために建てた墓標（表1の墓標番号5）をはじめ、登与城

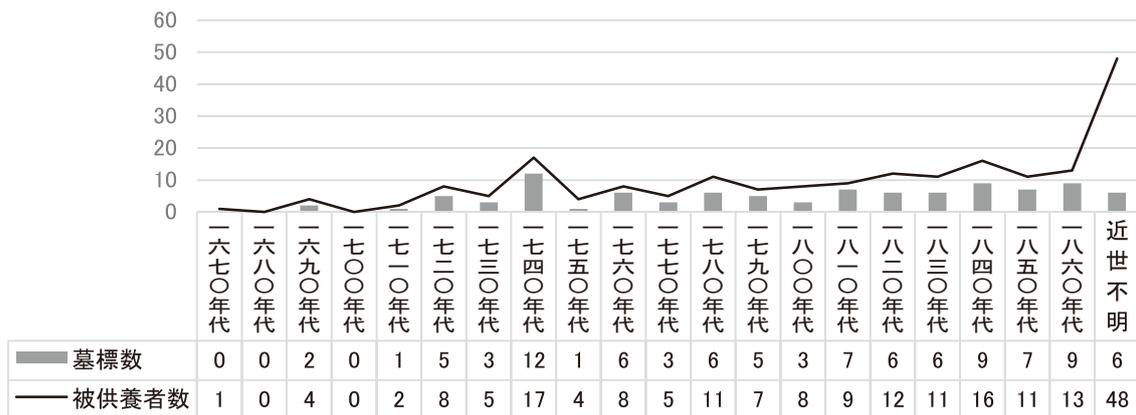


図3 沖永良部島の近世墓標数と被供養者数の変遷

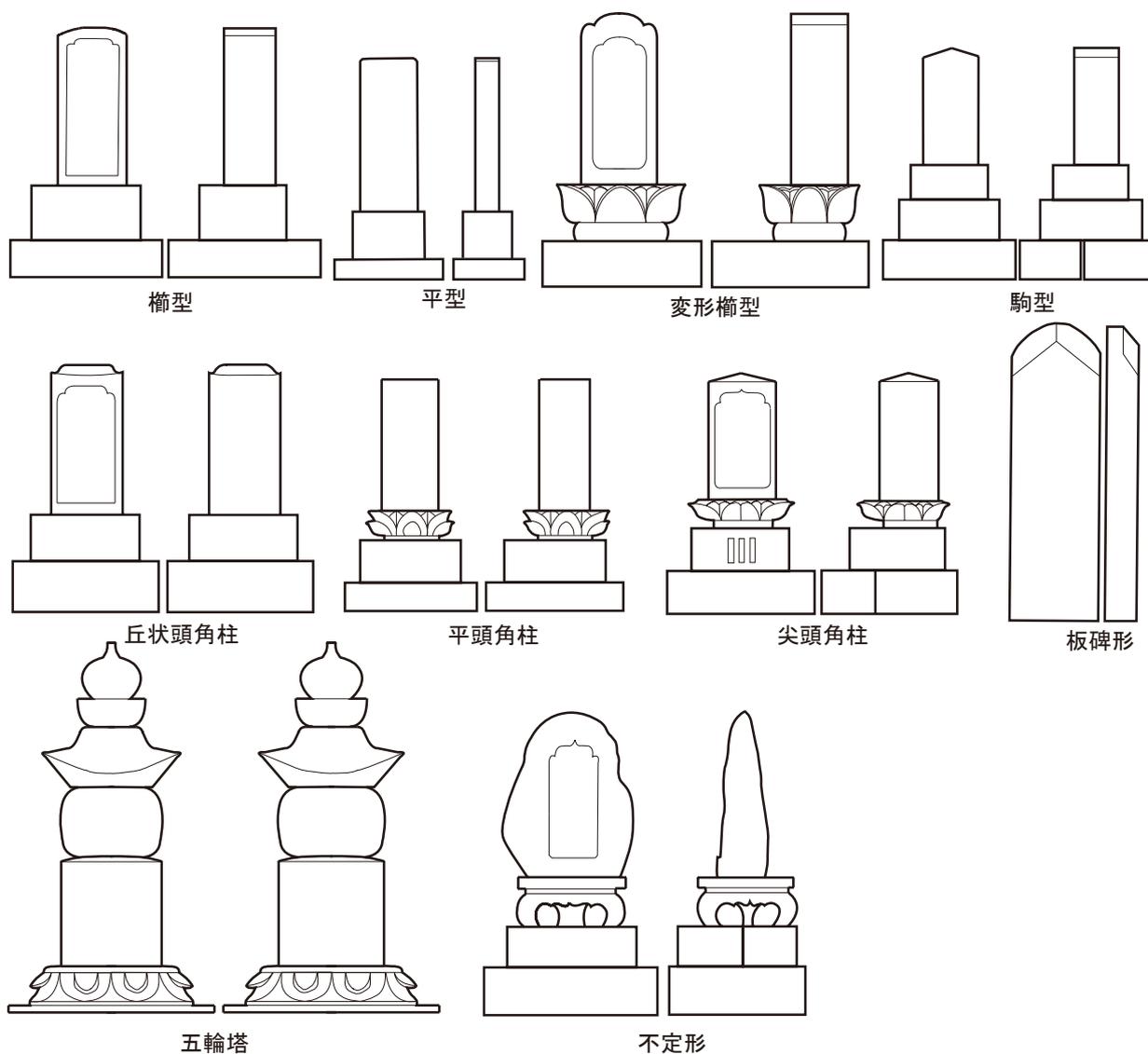


図4 沖永良部島の近世墓標の型式分類

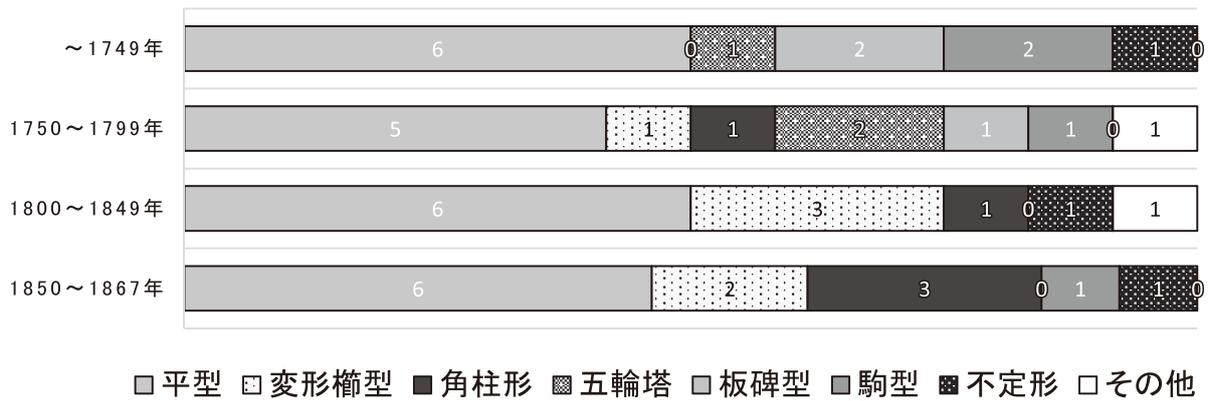


図5 沖永良部島の近世墓標の型式変遷

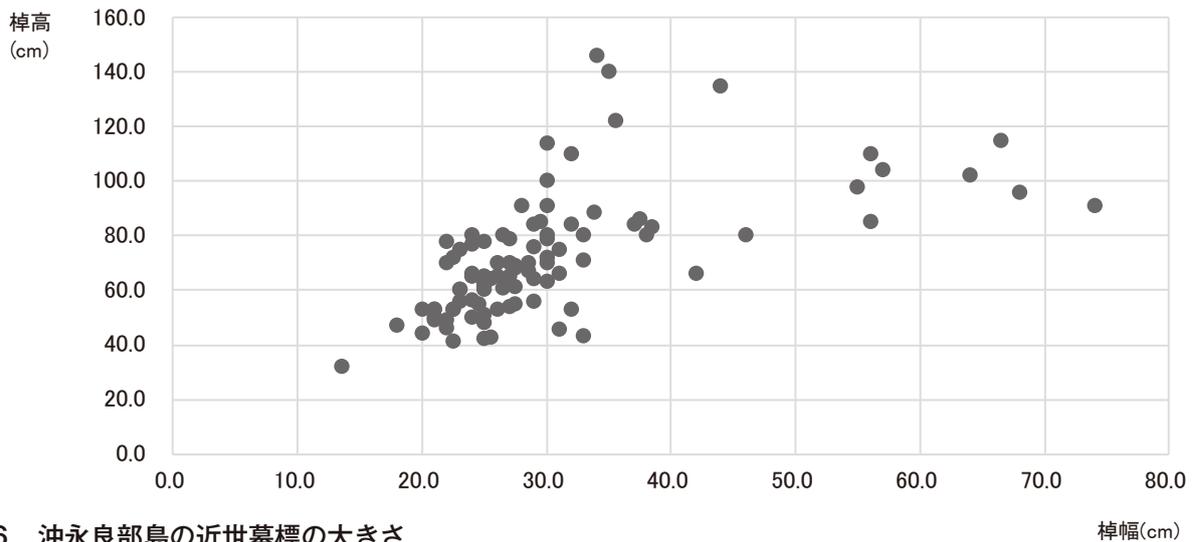


図6 沖永良部島の近世墓標の大きさ

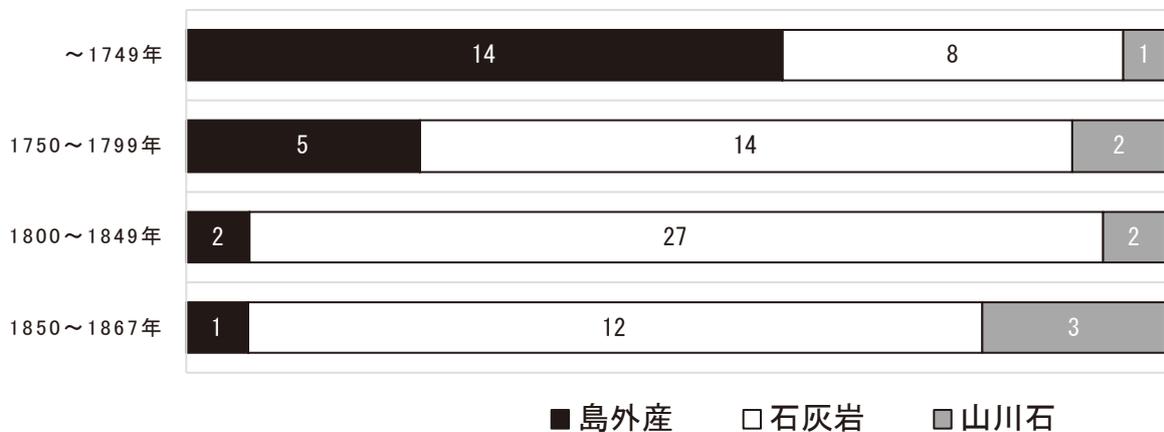


図7 沖永良部島の近世墓標の石材

(同26)、下納屋町牧野氏(同87)など造立者が明記された墓標は全て高さ100cmを超す。

【石材】 沖永良部島の近世墓標には、山川石以外の島外石、石灰岩、山川石が使われている(図7)。18世紀前半までは島外産が過半数を占めているが、18世紀前半には島内でも入手可能な石灰岩が島外石を上回るようになり、19世紀には墓標の大半を占めるようになる。このことから、18世紀前半までは島外から搬入された石灰岩以外の墓標が多く用いられていたのに対して、18世紀後半以降、奄美群島で墓標の製作が盛んになったと推察される。なお、鹿児島産の山川石製の墓標は延享元年(1744)に亡くなった成人男性のために建てられた駒形墓標(表1の墓標番号21)を最古とするが、19世紀前半までは数は限られており、増加するのは19世紀中葉以降である。

【墓標装飾と供養の文言】 97基中、額縁は89基、蓮華は49基の墓標に見られる。正面上部に卍を刻んだもの15基、円相を刻んだもの14基、「心」字を刻んだもの13基で、円相と心が組み合うもの7基、卍と心が組み合うもの1基が含まれる。他に梵字が刻まれたもの9基、日輪を刻むもの1基がある。頭書は「為」が18基と最も多く、「帰元」7基、「同會」6基と続き、他に「帰空」・「帰眞」・「帰靈」・「信帰」・「妙法」、名号がある。下置字は、多い順に「菩提」20基、「靈位」17基、「位」5基、「靈」2基、「各靈菩提」・「信靈」・「墓」が各1基である。

【家紋と家印】 家紋が刻まれた墓標は97基中5基と少なく、家印は見られない。家紋を刻むものでは、延享2年(1745)に死亡した成人男性と宝暦7年(1757)に亡くなった成人女性のために建てられた墓標(表1の墓標番号24)が最も古い。

(2) 沖永良部島と徳之島の近世墓標の被供養者

前述の通り、徳之島では義憲和氏が中心となって、島内の古墓の分布調査が行われており、その報告書には、島内の近世墓標に刻まれた戒名と没年月日が記載されている³⁾(徳之島三町文化財保護審議委員連絡協議会1993)。ここではその情報を用いて、沖永良部島と徳之島の近世墓標に刻まれた被供養者について比較検討する。なお、徳之島の天城町では平成29年度に町内の文化遺産総合活用事業の一環として兼久集落にある、そう(ショウ)・はかんとう・あがれの3か所の共同墓地の墓標調査が行われており、報告書に近世墓標の情報が掲載されている(天城町文化財活性化実行委員会2018)。本論ではその情報も組み込み、徳之島の近世墓標に刻まれた被供養者のデータベースを作成した(表3)。なお、沖永良部島同様、徳之島の近世墓標にも和暦が使われているが、徳和瀬墓地にある島内最古の墓標にのみ中国明朝の元号「万暦36年」(1608)が見られる(表3-1の故人番号1)。薩摩島津氏の琉球侵攻により奄美が鹿児島藩の支配下に組み込まれた慶長14年(1609)以降、奄美では基本的に和暦が使われるようになったことを物語っている。

【被供養者数の変遷】 両島の近世墓の刻まれた被供養者について、10年単位で人数の変遷を比較検討した(図8)。前述の通り、沖永良部島では、1690年代から墓標が建てられ始め、1740年代にややまとまった数造立されるものの、その後も幕末に至るまで、ほとんど増加が見られない。徳之島では、万暦36年(1608)に死亡した成人男性(表3-1の故人番号1)の墓標だけが突出して古く、

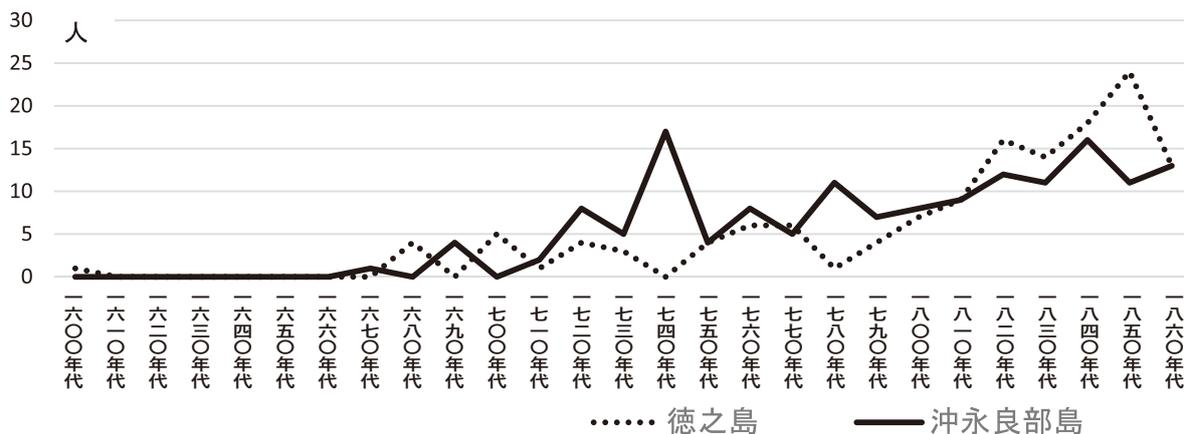


図8 近世墓標に刻まれた被供養者数の変遷

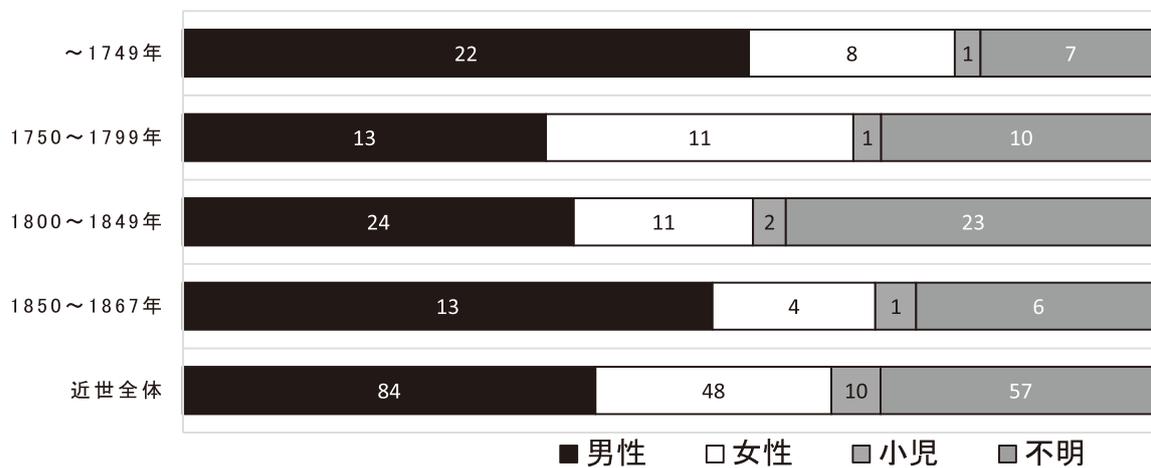


図9 沖永良部島の近世墓標の被供養者

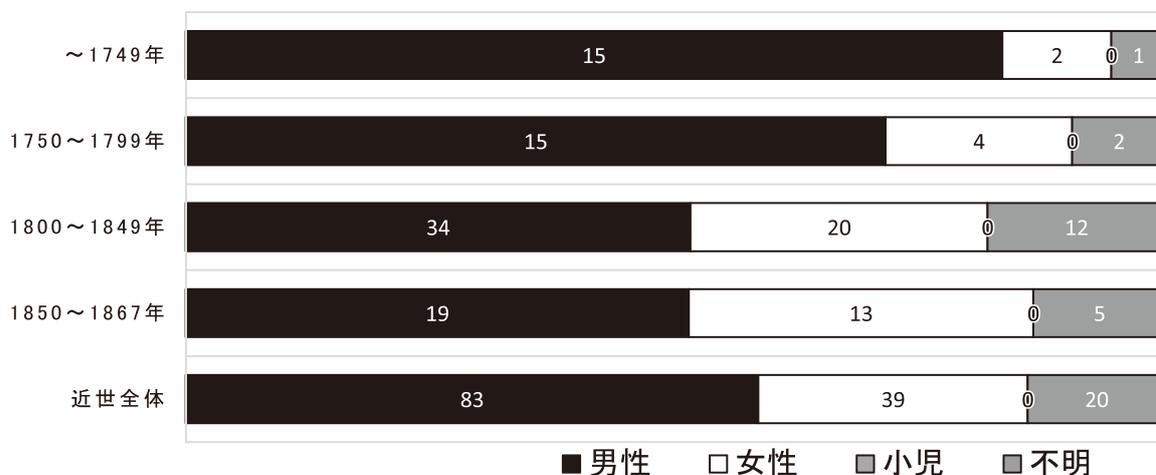


図10 徳之島の近世墓標の被供養者

その後70年を超す空白期があり、墓標がある程度連続して建てられるようになるのは1680年代以降である。被供養者数は、1710年代から1810年代までは沖永良部島が徳之島を上回っているが、1820年代以降は逆転する。母数が少ないため数が安定しないが、全体的には両島とも時代が新しくなるにつれ被供養者数は増加する傾向にあり、幕末には墓標が立て始められた17世紀末の10倍前後となっはいる。しかし被供養者数の増加率は0.1%/年に満たず、幕末に至っても両島ともに墓標が広く普及することはなかったと考えられる。

【被供養者数の性別と年齢】 被供養者の男女比は、沖永良部島で男性が女性の約1.8倍、徳之島で同じく2.1倍と、男性が女性を上回る（図9・10）。また徳之島では時代が下るにつれ女性の比率が高まる傾向がある。沖永良部島では墓標に子どもの戒名が見られるのに対して、徳之島で確認できない。沖永良部島の近世墓標では、1歳から90歳まで享年が分かる被供養者を69名確認できた（表3）。30代から80代の人が多いが、80歳以上は女性が目立つ（図11）。

【戒名の変遷】 沖永良部島では、18世紀前半以前には居士・大姉とならんで禪定門・禪定尼が多く見られるが、18世紀後半以降は禪定門・禪定尼が姿を消すとともに戒名を刻まない墓標が増える（図12）。居士・大姉は時代を問わず全体の約3分の1前後を占めているのに対して、信士・信女は19世紀後半には見られなくなる。徳之島では墓標に刻まれた戒名と没年が調査されているため、沖永良部島のデータとは前提が異なり、両者と同じ土俵で比較することはできない。徳之島の戒名は居士・大姉が圧倒的に多く、信士・信女は稀で、禪定門・禪定尼は確認できない。また沖永良部島には見られない院号・軒号が各2例存在する。なお、徳之島では廃仏毀釈に伴い墓標の戒名を削りとった痕跡が天城町兼久地区の墓地で確認されている（天城町文化財活性化実行委員会2018）。

4. 墓標にみる奄美の近世社会

沖永良部島と徳之島では、慶長14年（1609）に奄美群島が鹿児島藩の直接的支配下に組み込まれた以降も、琉球弧の葬制である伝統的な風葬・洗骨・再葬が近世を通して維持され続けた。両島でヤマトの葬制に由来する墓標が初めて受容されたのは17世紀末頃であり、全国的にも最も遅い地域といえる。墓標は自然の洞窟や岩陰を利用した墓の前や、トウル墓の玄室内や前庭部に建てられることが多いが、19世紀後半には本土と同じように地下に埋葬施設を設け、その上に墓標を建てる墓が現れる⁴⁾。沖永良部島の近世墓標には和暦が使われており、型式や型式変遷、装飾・供養の文言などの点でも、本土のものとの間で特段の違いは見られない。

沖永良部島では墓標が初めて建てられた1690年代以降、幕末に至るまで1740年代を除いて終始、墓標の造立は低調で、近世を通して墓標が次第に普及していった形跡は見られない。墓標に刻まれた被供養者数も墓標数と同様、幕末まで大きく変動していないことから、墓標が次第に家族墓化し、1基あたりの被供養者数が急増するような現象は起きなかったとみられる。墓標数について検討できていない徳之島も、被供養者数の変遷は沖永良部島と近似しており、同様に墓標の普及も墓標の家族墓化も起こらなかった可能性が高い。

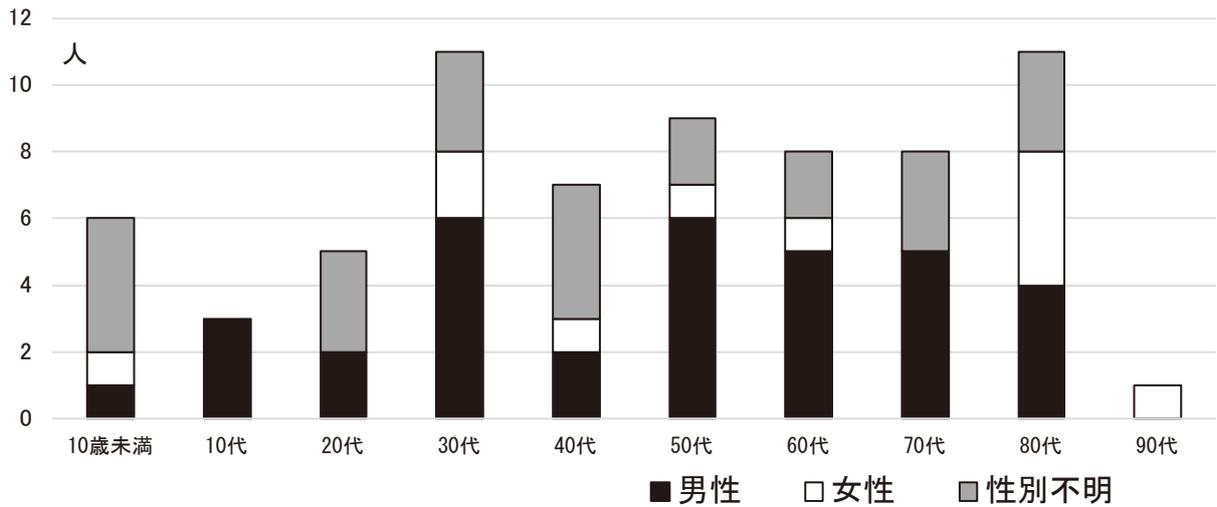


図11 沖永良部島の近世墓標に刻まれた享年

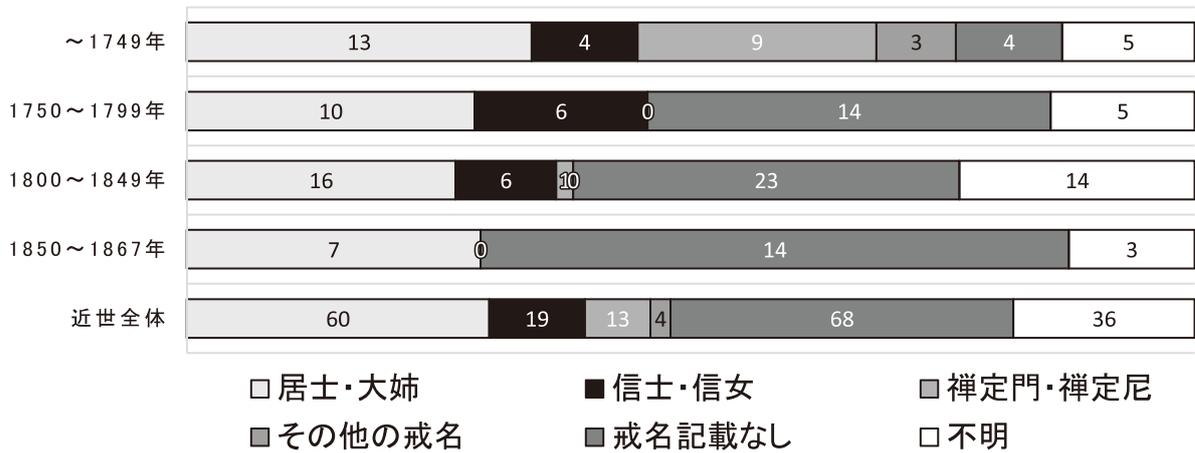


図12 沖永良部島の近世墓標の戒名変遷



図13 徳之島の近世墓標の戒名変遷

筆者は、近世墓標の増減パターンから、18世紀前半代に墓標数が急増する「畿内型」と、増減を繰り返しながらも次第に墓標数が増加し18世紀末から19世紀代に墓標造立数がピークを迎える「東日本型」、があることを指摘したことがある（関根・澁谷2007）。大分県杵築城下の事例などからみて、九州では18世紀前半～中頃に墓標数・被供養者数が第1のピークを迎えた後、19世紀に第2のピークが確認されるという（野村・美濃口2019）。墓標の造立が近世期を通して低調な沖永良部島や徳之島はいずれにも属さない「奄美型」とでも呼ぶべき独特のパターンを示す。

墓標の受容者に関しては、沖永良部島では間切の長である与人が多く、他に同じく島役人の横目と目差（目指）、鹿児島藩から派遣され現地で死亡した代官所の役人などが確認できた。徳之島でも横目と代官所の役人が確認できた。沖永良部島の近世墓標は、棹石の大きさにより、8割を占める高さ40～100cmで幅20～40cm程度のものと、棹石の高さが100cmを超す大型墓標のものに分かれる、後者には久志検の与人職の平安統が、祖父で喜美留の与人の池久保とその妻とおぼしき女性のために建てた墓標（表1の墓標番号5）や横目の木脇仁平次藤原祐長の墓標（墓標番号54）、大城与人の墓標（墓標番号97）など島役人の墓標が散見されるが、久志検与人平安統の墓標（墓標番号55）は前者の小型墓標である。被供養者の俗名を記した墓標は少ないため、断定はできないが、墓標の数からみて、墓標造立者の主体は島役人層とみて良いだろう。

沖永良部島の近世墓標に使われた石材の変遷から、18世紀後半以降、奄美群島で石灰岩を用いた墓標の製作が活発化したと推察した。今回検討した沖永良部島や徳之島では、18世紀後半以降も特に墓標の需要が拡大した形跡は見られないことから、これらの島内で製作された墓標がさほど多いとは考えられない。18世紀後半に奄美大島で墓標の需要が増加したことにより、大島で石灰岩製の墓標が作られ、その一部が沖永良部島や徳之島に運ばれたのではなかろうか。今後、奄美大島で近世墓標調査を進め、その点を確認する必要がある。

奄美は沖縄と異なり、鹿児島藩の支配に伴い近世期には「墓石文化圏」に組み込まれたが、沖永良部島や徳之島では幕末に至るまで墓標の造立者は専ら島役人層に限られ、本土のように墓標が一般庶民層にまで拡大普及することはなかった。その背景には、洗骨・再葬された遺骨（特に頭骨）を拝むという伝統が根強く、拝む対象としての墓標を必要としなかったという住民側の事情と、鹿児島藩による苛政が墓標の普及を阻害したという二つの要素が作用していると考えられる。後者がどの程度影響していたかについては、今後、奄美大島・喜界島・与論島の近世墓標との比較研究において明らかにしていきたい。

【謝辞】 末筆ではありますが、沖永良部島の近世墓標に関する調査資料の提供と使用許可をご快諾下さいました先田光演氏（えらぶ郷土研究会会長）をはじめ、沖永良部島の古墓をご案内下さった北野堪重郎氏（和泊町教育委員会）と宮城幸也氏（知名町教育委員会）、同じく徳之島の古墓をご案内下さった新里亮人氏（熊本大学埋蔵文化財調査センター）・具志堅亮氏（天城町教育委員会）・大屋匡史氏（徳之島町教育委員会）の皆様深く感謝申し上げます。

【註】

- 1) 掘り込み式崖墓は、徳之島では「トゥール」・「トウル」、奄美大島では「トゥール」・「トフル」、沖縄では「トゥール」・「フィンチャー」、喜界島では「ムヤ」・「モーヤ」、与論島では「ジシ」・「ギシ」と呼ばれる。あの世のグショー（後生）に通じる穴「トゥールカ」に由来するトゥールと「掘り込み」という語が訛ったフィンチャーが琉球弧の言葉なのに対して、「喪屋」または「殯」に由来するムヤ・モヤ、「厨子」に由来するジシ・ギシは大和語だという（先田2019）。
- 2) 和泊町畦布北海岸にある4基のトゥール墓のうち「殿内墓」と呼ばれる2号墓（和泊町教育委員会2019）の前には貞享3年（1686）8月9日の年号が刻まれた石碑が存在する。しかしこれは墓標ではなく、和村の掟役が大工の牛川間に依頼して先祖代々の墓所の入口を松材で修理したことを記念して建てた改修碑である（先田2019）。
- 3) 報告書『徳之島の墓地（古代・中世・近世）』には、型式・石材・大きさなど墓標そのものの情報は掲載されておらず、墓標に刻まれた被供養者の俗名についても省かれている。
- 4) 奄美群島のなかで最も遅くまで洗骨・再葬の風習が残っていた与論島では、近年まで埋葬施設の上に墓標を立てることは稀で、明治以降も墓標は半分地面に埋めた再葬用蔵骨器の手前に設けられるのが一般的であった。

【引用文献】

- 安陪光正2012「与論島と喜界島における風葬の変遷」『西日本文化』455、42-47頁、西日本文化協会
- 天城町文化財活性化実行委員会2018『兼久採集手帖』天城町「文化遺産」調査報告書1
- 伊仙町教育委員会2010『中筋川トゥール墓跡』伊仙町埋蔵文化財調査報告書4
- 上野和男1981「奄美大島の祖先祭祀と家族」『現代のエスプリ』194、101-117頁
- 宇検村文化財活性化実行委員会2015『宇検村集落墓地調査概要報告書』
- 宇検村文化財活性化実行委員会2016『宇検村墓地調査報告書』
- 恵原義盛1979「奄美の葬送・墓制」『沖縄・奄美の葬送・墓制』169-238、明玄書房
- 沖縄県考古学会2013『琉球近世墓の考古学』沖縄考古学会2013年度研究発表会資料集
- 沖縄県立博物館・美術館2015『琉球弧の墓制一風とサンゴの弔い』平成27年度沖縄県立博物館・美術館特別展図録)
- 小野重朗1968「喜界島のモーヤとヤバヤ」『南島研究』9、2-7頁、南島研究会
- 小野重朗1989「奄美大島の板石墓・積石墓」『シンポジウム南島の墓 沖縄の葬制・墓制』137-170頁、沖縄出版
- 小野重朗・長澤和俊・増田勝機1973「喜界島の風葬墓」『南日本文化』6、25-54頁、鹿児島短期大学南日本文化研究所
- 鹿児島県教育委員会1981『奄美群島の民俗1 徳之島・沖永良部島』奄美地区民俗文化財緊急調査報告書1
- 鹿児島県教育委員会1988『下山田Ⅱ遺跡・和野トフル墓』鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告45
- 加藤正春2010『奄美沖縄の火葬と葬制一変容と持続一』榕樹書林
- 兼城糸絵2020「奄美大島の共同納骨堂に関する一考察—宇検村の事例を中心に—」『奄美群島の歴史・文化・社会的多様性』、118-133頁、南方新社
- 観光資源保護財団1972『風葬墓地調査報告書』（与論島）
- 酒井卯作1987『琉球列島の死霊祭祀の構造』第一書房
- 先田光演2019「沖永良部島の墓制・トゥール墓とトゥールミ」『えらぶ郷土研究会報』46号、21-40頁、えらぶ郷土研究会

- 関根達人2013「近世石造物からみた蝦夷地の内国化」『日本考古学』36、59-84頁、日本考古学協会
- 関根達人2018『墓石が語る江戸時代』吉川弘文館歴史文化ライブラリー 464
- 関根達人・澁谷悠子2007「墓標からみた江戸時代の人口変動」『日本考古学』24、21-39頁、日本考古学協会
- 知名町教育委員会2019『知名町の古墓1』知名町埋蔵文化財発掘調査報告書14
- 徳之島三町文化財保護審議委員連絡協議会1993『徳之島の墓地（古代・中世・近世）』平成4年度事業報告書
- 野村俊之・美濃口雅朗2019「墓石の普及と地域性 九州地方」『季刊考古学』149号、86-88頁、雄山閣
- 平敷令治1995『沖縄の祖先祭祀』第一書房
- 福岡直子2000「奄美大島（芦検）の新しい共同墓地—建設に至る経緯と墓制の変化」『民俗文化研究』1、37-75
頁
- 福ヶ追加那2014「奄美大島宇検村における「墓の共同化」—田検「精霊殿」創設の事例から—」『南太平洋研究』
35、1-20頁
- 三島格1969「モーヤとトゥール—薩南諸島の古墓—」『南島研究』10、2-10頁、南島研究会
- 和泊町教育委員会2019『和泊町の古墓1』和泊町埋蔵文化財発掘調査報告書8

表1 沖永良部島の近世墓標 (年代順)

墓標番号	所在地	碑高 (cm)	横幅 (cm)	碑面数	石材	型式	額縁	家紋	梵字	蓮華	家印	記載人数	頭書1	頭書2	下置字	造立年	造立年/最新年	備考
1	知名町屋者	140.0	35.0	1	石灰岩	五輪塔	有	無	有	有	無	1					1690	
2	知名町瀬利覚	70.0	22.0	2	島外産	櫛型						2		帰眞	霊位		1698	N家 康熙年号
3	和泊町和	66.0	42.0	1	島外産	不定形	有	無	無	有	無	1					1718	
4	知名町黒貫	72.0	22.5	1	島外産	平型	無	無	有	無	無	1			霊位		1720	K家
5	和泊町内城	100.0	30.0	3	島外産	平型	有	無	無	有	無	2	心	眞		1721	1721	
6	和泊町和	78.0	22.0	1	島外産	櫛型	有	無	有	無	無	1	日輪		霊		1721	唐草の装飾
7	和泊町玉城			1	島外産	平型	無	無	無	有	無	1		為	菩提		1726	所在不明
8	和泊町玉城	79.0	27.0	2	島外産	櫛型	有	無	無	有	無	1	○	眞	霊位		1729	
9	和泊町玉城	60.0	23.0	1	島外産	平型	有	無	有	有	無	1			霊位		1732	
10	和泊町古里	80.0	26.5	1	島外産	櫛型	有	無	無	有	無	1	心				1733	
11	和泊町玉城	80.0	24.0	1	島外産	櫛型	有	無	有	有	無	1			霊位		1735	
12	知名町屋子母セージマ	45.5	31.0	2	石灰岩	平型	無	無	有	無	無	2					1740	
13	和泊町玉城	77.0	24.0	1	島外産	櫛型	有	無	有	有	無	2			霊位		1740	
14	和泊町皆川	70.0	26.0	2	島外産	櫛型	有	無	無	有	無	1		帰霊		1740	1740	S家
15	知名町屋子母セージマ	56.5	24.0	1	石灰岩	櫛型	無	無	有	無	無	2	○		霊位		1741	
16	知名町正名	62.0	25.0	3	石灰岩	駒型	無	無	無	無	無	4	○				1742	
17	知名町赤嶺	70.0	30.0	2	石灰岩	櫛型	有	無	無	有	無	2	卍		菩提		1742	昭和61年修復再建
18	知名町赤嶺	122.0	35.5	1	石灰岩	板碑型	有	無	無	無	無	3	○心	帰空	霊位		1742	
19	和泊町玉城	91.0	28.0	2	島外産	櫛型	無	無	無	無	無	2	○	帰眞			1743	
20	知名町赤嶺	135.0	44.0	3	石灰岩	櫛型	有	無	無	有	無	1					1744	H家
21	和泊町皆川	49.0	22.0	1	山川石	駒型	有	無	無	有	無	1	○心				1744	Y家
22	和泊町皆川	79.0	30.0	2	島外産	平型	有	無	無	有	無	4	○	同會	霊位		1745	O家
23	知名町正名	114.0	30.0	1	石灰岩	板碑型	有	無	無	無	無	1			位		1747	
24	知名町久志検	46.0	22.0	2	山川石	櫛型	有	無	有	有	無	2					1757	Y家
25	和泊町内城	80.0	46.0	4	島外産	変形櫛型	有	無	無	有	無	2				1760	1760	
26	和泊町内城	115.0	66.5	3	島外産	平型	有	無	無	有	無	8	心	帰元	位	1762	1762	
27	和泊町玉城	60.0	23.0	1	島外産	櫛型	有	無	無	有	無	2	心	為	信霊		1763	
28	知名町住吉	64.0	29.0	1	石灰岩	駒型	有	無	無	有	無	1					1766	F家
29	和泊町和	61.0	25.0	1	島外産	櫛形	有	無	無	有	無	1		帰元	霊位		1766	M家
30	知名町屋者	110.0	32.0	1	石灰岩	五輪塔	有	無	無	有	無	2		同會	霊位		1768	
31	和泊町群布	96.0	68.0	1	石灰岩	平型	有	無	無	無	無	2		為			1770	
32	知名町正名	43.0	33.0	2	山川石	平頭角柱	有	無	無	有	無	4					1773	
33	知名町田皆	84.0	32.0	1	石灰岩	板碑型	有	無	無	有	無	1					1774	
34	知名町大津勤	85.0	29.5	2	石灰岩	櫛型	有	無	無	無	無	1					1782	
35	知名町芦清良	54.0	27.0	1	石灰岩	櫛型	有	無	無	無	無	1	卍		菩提		1783	
36	和泊町玉城	60.5	26.5	2	島外産	平型	有	無	無	有	無	2					1783	
37	知名町黒貫	75.0	23.0	1	石灰岩	櫛型	有	無	無	有	無	1	卍				1784	K家
38	和泊町群布	68.0	27.5	2	石灰岩	櫛型	有	無	無	無	無	3		妙法	各書 菩提		1787	
39	知名町正名	65.0	26.0	2	石灰岩	平型	有	無	無	無	無	1	卍				1788	
40	知名町屋子母セージマ	78.0	25.0	3	石灰岩	櫛型	有	無	無	無	無	3	○心	名号			1791	トール墓内部
41	知名町黒貫	56.0	23.0	2	石灰岩	五輪塔	有	無	無	無	無	1	卍				1791	K家
42	和泊町群布	91.0	74.0	1	石灰岩	平型	有	無	無	無	無	2			菩提		1796	
43	和泊町皆川	44.0	20.0	1	石灰岩	櫛型	有	無	無	無	無	1		為帰元	菩提		1798	
44	知名町黒貫	53.0	26.0	1	石灰岩	その他	有	無	無	有	無	2		為			1799	K家
45	和泊町群布	71.0	33.0	2	石灰岩	櫛型	有	無	無	無	無	1	心	為	菩提		1800	
46	知名町屋子母セージマ	55.0	27.5	2	石灰岩	櫛型	有	無	無	無	無	2		為	霊位		1801	
47	和泊町群布	84.0	37.0	2	石灰岩	櫛型	有	無	無	無	無	1	心	同會			1809	
48	和泊町内城	65.0	27.0	2	石灰岩	平型	有	無	無	無	無	1					1811	
49	和泊町群布	86.0	37.5	2	石灰岩	櫛型	有	無	無	無	無	2	心	同會			1813	
50	知名町上城	42.0	25.0	2	石灰岩	櫛型	有	無	無	無	無	1					1813	
51	知名町徳時	80.0	38.0	2	石灰岩	変形櫛型	有	無	無	有	無	1	卍		位		1813	
52	知名町上城	48.0	25.0	4	石灰岩	櫛型	有	無	無	無	無	3		帰空	霊位		1814	
53	知名町瀬利覚	91.0	30.0	1	石灰岩	不定形	有	無	無	無	無	1	卍	為	菩提		1817	H家
54	和泊町上手	110.0	56.0	2	花崗岩	不定形	無	無	無	無	無	1					1818	背面に墓誌
55	和泊町内城	88.5	33.8	2	石灰岩	平型	有	無	無	無	無	4	○心	眞			1821	
56	知名町屋者	65.0	24.0	3	石灰岩	櫛型	有	無	無	無	無	2		帰口為	菩提		1824	
57	知名町田皆	41.0	22.5	2	石灰岩	櫛型	有	無	無	無	無	1			霊位		1825	
58	和泊町谷山	56.0	29.0	2	山川石	櫛型	有	無	無	無	無	3	○心	為	菩提		1826	
59	知名町黒貫	53.0	22.5	1	石灰岩	平型	有	無	無	有	無	1	卍		菩提		1827	K家
60	知名町徳時	80.0	33.0	3	石灰岩	櫛型	有	無	無	有	無	2		為	菩提		1827	
61	和泊町内城	66.0	31.0	2	石灰岩	平型	有	無	無	無	無	3	○心	帰元	霊		1830	
62	知名町徳時	83.0	38.5	2	石灰岩	櫛型	有	無	無	有	無	3	卍				1832	
63	和泊町群布	98.0	55.0	2	石灰岩	平型	有	無	無	無	無	1			菩提		1834	
64	知名町田皆	50.0	24.0	2	石灰岩	櫛型	有	無	無	無	無	1	心				1834	
65	和泊町内城	72.0	30.0	2	石灰岩	櫛型	有	無	無	無	無	5	心	帰元	墓		1835	
66	知名町知名	50.0	21.0	2	石灰岩	その他	有	無	無	有	無	1	卍				1835	知名墓地
67	和泊町出花	60.0	25.0	1	石灰岩	変形櫛型	有	無	無	有	無	1		為	菩提		1840	
68	和泊町後蘭平家墓地	64.0	25.5	2	石灰岩	櫛型	無	無	無	無	無	1					1841	K家
69	和泊町皆川	51.0	25.0	3	島外産	丘頭角柱	有	無	無	無	無	1					1841	M家
70	知名町屋子母	53.0	21.0	1	山川石	変形櫛型	有	無	無	有	無	1		為	菩提		1841	
71	知名町徳時	75.0	31.0	2	石灰岩	櫛型	有	無	無	有	無	1	卍心		位		1842	
72	知名町徳時	76.0	29.0	2	石灰岩	櫛型	有	無	無	有	無	2	卍		位		1842	
73	和泊町皆川	55.0	24.5	3	石灰岩	櫛型	有	無	無	無	無	3	○	帰元			1845	
74	和泊町群布	104.0	57.0	1	石灰岩	平型	有	無	無	無	無	3	○	為	菩提		1847	
75	和泊町国頭	65.0	24.0	2	石灰岩	櫛型	有	無	無	無	無	5			菩提		1844-48	弘化年間
76	和泊町和泊	67.0	28.5	2	石灰岩	変形櫛型	有	無	無	無	無	1					1853	
77	和泊町和泊	84.0	29.0	2	石灰岩	尖頭角柱	有	無	無	有	無	2					1853	
78	和泊町内城	65.0	25.0	2	石灰岩	櫛型	有	無	無	無	無	3					1854	
79	知名町正名	53.0	22.5	2	山川石	平頭角柱	有	無	無	有	無	7					1854	
80	知名町徳時	47.0	18.0	3	石灰岩	櫛型	有	無	無	有	無	4					1856	
81	知名町屋者	61.0	27.5	1	石灰岩	変形櫛型	有	無	無	有	無	1		信帰			1857	
82	知名町久志検	53.0	32.0	1	石灰岩	平型	有	無	無	無	無	3		同會			1858	Y家
83	和泊町国頭	70.0	27.0	1	石灰岩	駒型	有	無	無	有	無	1			霊位		1862	
84	和泊町瀬名	42.5	25.5	2	石灰岩	不定形	有	無	無	無	無	4	○心				1862	
85	知名町上平川	53.0	20.0	2	山川石	平頭角柱	有	無	無	有	無	2	心				1863	明治2年の死亡者追刻
86	和泊町群布	85.0	56.0	1	石灰岩	平型	有	無	無	無	無	2					1864	
87	和泊町和	49.0	21.0	2	砂岩	平型	有	無	無	有	無	1					1865	
88	和泊町群布	102.0	64.0	1	石灰岩	平型	有	無	無	無	無	1	心	為	菩提		1867	
89	知名町屋者	69.0	27.5	1	石灰岩	平型	有	無	無	有	無	1					1867	
90	和泊町永峯	32.0	13.5	1	山川石	平型	有	無	無	有	無	1	心				1867	
91	知名町知名	63.0	30.0	1	石灰岩	櫛型	有	無	無	無	無	1	卍	為			1861-64	知名墓地 文久年間
92	和泊町群布	70.0	28.5	1	石灰岩	櫛型	有	無	無	無	無	1	卍	為	菩提		不明	文政年間
93	知名町屋者	80.0	30.0	1	石灰岩	櫛型	有	無	無	無	無	1	為		菩提		不明	文化年間
94																		

表2-1 沖永良部島の近世墓標に刻まれた被供養者(1)

故人番号	墓標番号	施主	戒名(略)	性別等	続柄・役職・俗名	没年月日	享年
1	2		4禪定門	男性		1671.1229	29
2	30		4居士	男性	屋謝村 久志検	1690.0608	37
3	1		4居士	男性	屋謝村 久志検	1690.0608	37
4	5	孝孫 久志検与人 平安統	4居士	男性	喜美留与人 池久保	1696.0626	
5	2		4禪定尼	女児		1698.0722	
6	3		4禪定尼	女性	佐部良	1718.0215	
7	22		2上座	男性		1719.1215	
8	4		3居士	男性	富里	1720.0914	
9	6		4居士	男性	喜勢里	1721.0303	
10	5	孝孫 久志検与人 平安統	4大姉	女性	千袈婆	1721.0510	
11	22		4禪尼	女性		1724.0401	
12	13		4神女	女性		1725.0612	
13	7		なし	男性	西目掟	1726.1014	
14	18		2禪定門	男性		1728.0000	
15	8		4信女	女性	□子玉城村之 前久保	1729.0800	
16	14	宮里	4居士	男性	佐喜間	1731.0611	
17	17		なし	不明	宇久間	1732.0323	
18	9		4禪定門	男性		1732.1210	
19	10		不明	不明	□里大□	1733.0824	
20	36		2禪定門	男性		1716-36	
21	18		4信女	女性		1739.0404	
22	12		5居士	男性		1740.0021	
23	22		4大姉	女性		1740.0419	
24	13		4居士	男性		1740.0623	
25	和 B5		不明	不明		1740.1008	
26	15		5	不明		1741.0511	
27	15		5大師	男性		1741.0607	
28	16		4大姉	女性		1742.0000	
29	18		2禪定門	男性		1742.1006	
30	17		なし	不明	喜名安	1742.1123	
31	19		なし	不明		1743.0407	
32	20		4信士	男性	□□	1744.0124	88
33	21		4信士	男性		1744.0901	
34	22		4禪定門	男性		1745.0313	
35	24		4居士	男性	松下?	1745.0405	
36	23		4居士	男性		1747.0013	
37	25	孝□□□	不明	男性	佐久田	1748.0312	73
38	和 B5		不明	不明		1744-48	
39	27		なし	女性	宮里	1752.0000	
40	56		なし	不明	伊舎	1756.0000	65
41	24		4大姉	女性		1757.1101	
42	25	孝□□□	不明	不明		1759.0000	
43	26	□□登与城	4居士	男性	登与嶺	1760.1009	50
44	27		なし	女性	ニツ?	1763.0427	
45	29		4居士	男性		1766.0000	
46	28		4信士	男性		1766.0000	
47	32		なし	女性	なへ	1766.0519	
48	32		なし	女性	まつ	1766.0519	
49	31		なし	不明		1767.0000	
50	30		4大姉	女性	加祢□	1768.1003	
51	31		なし	不明		1770.0000	
52	32		なし	男性	上甫	1773.1213	
53	33		不明	不明		1774.0000	
54	32		なし	男性	上本	1774.1227	
55	42		なし	男性	池地	1776.0201	不明
56	34		4信士	男児	西□□ や□	1782.0910	15
57	36		4居士	男性	春澄	1783.0000	77
58	35		なし	男性	當治	1783.1019	
59	37		4信士	男性		1784.0010	
60	40		2信女	女性		1785.0012	不明
61	40		2信女	女性	よ子松	1787.0402	
62	38		なし	男性	父 保合□	1787.0529	55
63	39		なし	不明	□村屋	1788.0023	48
64	26		4大姉	女性		1789.0818	
65	和 B2		4大姉	女性		1781-89	48
66	和 B2		4居士	男性		1781-89	81
67	40		4信女	女性	ふた	1791.0200	53
68	41		4居士	男性		1791.0212	不明
69	42		なし	不明	□□	1796.1015	

表2-2 沖永良部島の近世墓標に刻まれた被供養者(2)

故人番号	墓標番号	施主	戒名(略)	性別等	続柄・役職・俗名	没年月日	享年
70	26	□□登与城	4居士	男性		1796.1024	50
71	43		不明	不明		1798.0300	
72	知B5		なし	不明	兼	1798.0627	85
73	44		不明	不明		1799.0214	
74	45		不明	不明	池穴?	1800.0016	
75	26	□□登与城	4居士	男性		1801.0715	14
76	46		4	不明		1801.1110	73
77	46		4	不明		1801.1211	37
78	96		4	不明		1789-1801	
79	知B2		なし	不明		1804.0700	25
80	55		4居士	男性	五世久志検与人 平安統	1804.0913	73
81	52		4大姉	女性		1807.1000	83
82	47		4居士	男性	里盛	1809.0704	65
83	82		4居士	男性		1810.0318	
84	48		なし	男性	禅王寺住職 禮経	1811.1025	82
85	50		4居士	男性		1813.0000	50
86	51		3信女	女性	不明	1813.0000	不明
87	和B1		4居士	男性	池久甫	1813.0812	63
88	49		2禅定門	男性	里澤	1813.1019	80
89	52		なし	不明		1814.0100	64
90	53		4	不明		1817.0107	32
91	54		4居士	男性	(横目)木脇仁平次藤原祐長	1818.0205	
92	93		不明	不明		1804-18	
93	55		4大姉	女性	平安統(妻)	1821.0108	不明
94	58		なし	不明	乙	1822.1110	
95	56		4信士	男性		1824.0315	不明
96	58		なし	不明	□□也	1824.1205	
97	72		4信女	女性		1825.0801	
98	57		なし	男性	新里 米松	1825.1100	不明
99	58		なし	不明	久保□	1826.0716	70
100	59		不明	不明		1827.0002	
101	60		なし	男性	池川	1827.0012	
102	60		なし	女性	妻 牡丹	1827.0219	90
103	74		なし	女性	鶴	1827.0313	87
104	62		不明	男性	□盛	1828.0222	72
105	61		不明	不明		1830.0000	不明
106	92		不明	不明		1818-30	
107	84		なし	不明		1831.0518	70
108	知B3		なし	不明		1831.1124	28
109	62		3信女	女性	よ祢	1832.0002	69
110	63		なし	男性	盛甫	1834.0000	
111	64		なし	小児	まご□操	1834.0719	9
112	66		4	小児		1835.0216	8
113	65		不明	男性	四世 登與□	1835.0902	61
114	84		なし	不明		1837.0206	不明
115	80		なし	不明	千代	1838.0402	81
116	和B3		4居士	男性		1839.0415	
117	67		なし	女性	ウシ	1840.1223	
118	70		不明	不明		1841.0420	
119	69		4居士	男性	清水彦右衛門(遠島人)	1841.0602	
120	68		4居士	男性	苅田貞右エ門	1841.0626	
121	74		なし	男性	具志村	1841.1200	46
122	72		4信女	女性		1842.0705	
123	71		4信士	男性	山川	1842.0911	65
124	80		なし	不明	龍里	1843.0606	49
125	73		4大姉	女性		1845.0200	88
126	80		なし	不明	行座	1846.0025	44
127	知B1		なし	不明	先島	1846.1001	46
128	74		なし	男性	善志富	1847.0000	79
129	和B2		4居士	男性	久米郷	1847.0713	57
130	和B3		4大姉	女性		1847.1114	
131	94		3居士	男性		1830-44	
132	75		不明	不明	ま□	1844-48	
133	和B4		なし	男性	宜呈	1844-48	
134	知B5		なし	女性	嶋治嫁 恵松	1850.0808	36
135	77		4居士	男性	喜美留間切 山眞碎美	1853.0100	
136	76		4居士	男性	(大目附座書役横目兼務蔵方目附) 園田喜三次	1853.0823	
137	和B4		なし	女性	ま加	1854.0000	

表2-3 沖永良部島の近世墓標に刻まれた被供養者(3)

故人番号	墓標番号	施主	戒名(略)	性別等	続柄・役職・俗名	没年月日	享年
138	78		4大姉	女性	勝智母 牡丹眞	1854.0208	81
139	79		4	男性	内澄	1854.0220	32
140	80		なし	不明	榮里	1856.0027	32
141	86		なし	男性	山野米松	1856.0900	43
142	81		3居士	男性	千代	1857.0304	58
143	84		なし	不明	為志	1857.0520	53
144	82		4居士	男性		1858.0720	
145	83		なし	男性	□兼松	1862.0700	31
146	84		なし	不明	為志	1862.0805	20
147	85		4大姉	女性		1863.0526	
148	85		なし	男性	兼松	1863.1210	
149	知 B4		なし	男性	目差格 阿我礼	1864.0000	63
150	86		なし	男性	三□屋	1864.1030	30
151	91		4	不明		1861-64	
152	87	下納屋町 牧野氏	4居士	男性	田實吉助	1865.0427	
153	知 B2		なし	男性	浅治	1865.0802	30
154	88		なし	男性	喜嶋	1867.0227	
155	89		なし	不明	虎川?	1867.0301	
156	知 B5		なし	男児	嶋治	1867.0329	13
157	90		4	不明		1867.0413	
158	52		不明	不明		不明	不明
159	和 B2		4居士	男性	與人 池悦□	不明	不明
160	55		4大姉	女性		不明	
161	55		4大姉	女性		不明	
162	78		4大姉	女性		不明	
163	78		4大姉	女性		不明	
164	61		4居士	男性		不明	
165	61		不明	不明		不明	
166	26	□□登与城	4居士	男性	登仁古□	不明	
167	26	□□登与城	4大姉	女性		不明	
168	26	□□登与城	4大姉	女性		不明	
169	26	□□登与城	4禪定尼	女性		不明	
170	65		4居士	男性	三世 登□□	不明	
171	65		4大姉	女性	(三世 登□□妻)	不明	
172	65		4大姉	女性	二世 登與原(妻)	不明	
173	65		4大姉	女性	(四世 登與□妻) 武宮米	不明	
174	11		2禪定門	男性		不明	
175	19		なし	不明		不明	
176	49		2禪定門	男性		不明	
177	38		なし	不明	□ 池□	不明	
178	38		なし	女性	兄 松定志妹□□	不明	
179	77		なし	女性	鶴	不明	
180	73		なし	女性	こ□	不明	33
181	73		なし	女児	松明	不明	
182	75		不明	不明	□□	不明	
183	75		不明	不明	なへ	不明	
184	75		不明	不明	ひま	不明	
185	75		不明	不明	□□	不明	
186	97		不明	男性	大城與人 久米村	不明	
187	12		5大師	男性		不明	
188	44		不明	不明		不明	
189	62		なし	女児	市ま	不明	9
190	16		2信士	男性		不明	
191	16		2信士	男性		不明	
192	16		2信士	男性		不明	
193	79		なし	男性	内川	不明	21
194	79		なし	不明		不明	54
195	79		なし	不明		不明	80
196	79		なし	男児	内治	不明	1
197	79		なし	小児		不明	7
198	79		なし	小児		不明	7
199	95		不明	不明		不明	
200	82		3大姉	女性		不明	

表3-1 徳之島の近世墓標に刻まれた被供養者(1)

故人番号	所在地	戒名(略)	性別等	続柄・役職・俗名	没年	造立年	備考
1	徳之島町徳和瀬 徳和瀬墓地	7 居士	男性		1608.0200		万暦 36 年
2	徳之島町徳和瀬 徳和瀬墓地	4 大姉	女性		1682.1116		
3	徳之島町徳和瀬 徳和瀬墓地	4 居士	男性		1684.0200		
4	伊仙町伊仙納原 西伊仙ふれ墓	4 居士	男性		1686.0603		
5	徳之島町徳和瀬 徳和瀬墓地	4 居士	男性		1689.1014		
6	徳之島町徳和瀬 徳和瀬墓地	4 居士	男性	伊地知助右衛門平重張	1702.0903		
7	徳之島町徳和瀬 徳和瀬墓地	4 居士	男性		1703.1029		
8	徳之島町徳和瀬 徳和瀬墓地	4 大姉	女性		1705.0625		
9	徳之島町母間 池間墓地	4 居士	男性		1709.0321		
10	徳之島町母間 母間墓地	4 居士	男性		1709.0321		
11	徳之島町徳和瀬 徳和瀬墓地	4 居士	男性		1714.0727		
12	天城町天城 名須墓地	2 居士	男性		1720.0126		
13	徳之島町徳和瀬 徳和瀬墓地	4 居士	男性		1720.1012		
14	天城町兼久 そう墓地	なし	不明		1722.0118		
15	徳之島町徳和瀬 徳和瀬墓地	4 居士	男性		1722.1204		
16	伊仙町喜念 てらじし墓地	院 4 居士	男性		1731.0226		
17	天城町平土野 喜納墓地	4 居士	男性		1733.0000		
18	徳之島町徳和瀬 徳和瀬墓地	4 居士	男性		1738.0926		
19	伊仙町検福 赤久墓地	4 大姉	女性		1751.0907		
20	天城町浅間 浅間墓地	4 居士	男性		1752.0000		
21	天城町兼久 あがれ墓地	不明	不明		1753.0000	1782	戒名削り取り
22	徳之島町徳和瀬 徳和瀬墓地	4 居士	男性		1753.0525		
23	伊仙町東伊仙 伊仙松山墓地	4 居士	男性		1760.0227		
24	伊仙町検福 赤久墓地	4 居士	男性		1762.1025		
25	天城町塩満 塩満墓地	4 居士	男性		1763.0000		
26	伊仙町検福 赤久墓地	4 居士	男性		1764.0107		
27	天城町兼久 はかんとう墓地	なし	不明		1765.0402		
28	伊仙町東伊仙 伊仙松山墓地	4 居士	男性		1769.0805		
29	徳之島町花徳 新村墓地	院 2 居士	男性		1771.0000		
30	伊仙町東伊仙 伊仙松山墓地	4 大姉	女性		1772.0000		
31	徳之島町井之川 井之川墓地	3 大姉	女性		1772.0110		
32	伊仙町検福 赤久墓地	4 居士	男性		1776.0528		
33	徳之島町徳和瀬 徳和瀬墓地	4 居士	男性	法元太郎左衛門日下部盛	1777.0100		
34	天城町天城 名須墓地	4 居士	男性		1777.0724		
35	天城町浅間 浅間墓地	4 居士	男性		1785.0000		
36	伊仙町面縄古里 面縄墓地	4 神妙	女性		1791.1104		
37	伊仙町面縄古里 面縄墓地	4 居士	男性		1792.0601		
38	伊仙町検福 赤久墓地	4 居士	男性		1793.0611		
39	天城町兼久 そう墓地	4 居士	男性		1799.0407		
40	天城町浅間 浅間墓地	不明	不明		1801.0600		
41	伊仙町東伊仙 伊仙松山墓地	4 居士	男性		1801.0821		
42	伊仙町検福 赤久墓地	4 居士	男性		1802.1015		
43	天城町兼久 兼久墓地	4 居士	男性		1803.0219		
44	天城町兼久 あがれ墓地	不明	不明		1803.0713	1806	戒名削り取り
45	天城町岡前 しんぎんとう墓	4 居士	男性		1805.0000		
46	徳之島町井之川 井之川墓地	3 居士	男性		1806.0726		
47	徳之島町花徳 新村墓地	4 居士	男性		1811.0000		
48	天城町兼久 そう墓地	4 居士	男性		1811.0406		
49	徳之島町井之川 井之川墓地	4 居士	男性	川口曾兵衛	1812.0408		
50	天城町兼久 兼久墓地	4 大姉	女性		1814.0127		
51	伊仙町目手久 目手久墓地	4 大姉	女性		1814.0706		
52	伊仙町目手久 目手久墓地	4 居士	男性		1815.0915		
53	伊仙町阿権 阿権墓地	4 居士	男性		1815.1022		
54	伊仙町阿権 阿権墓地	4 大姉	女性		1816.0707		
55	伊仙町阿権 阿権墓地	4 大姉	女性		1817.1025		
56	伊仙町東伊仙 伊仙松山墓地	2 大姉	女性		1820.0500		
57	伊仙町伊仙納原 西伊仙ふれ墓	4 大姉	女性		1820.0623		
58	天城町兼久 そう墓地	不明	不明		1821.0000		戒名削り取り
59	伊仙町東伊仙 伊仙松山墓地	4 居士	男性		1822.0214		

表3-2 徳之島の近世墓標に刻まれた被供養者(2)

故人番号	所在地	戒名(略)	性別等	続柄・役職・俗名	没年	造立年	備考
60	伊仙町伊仙納原 西伊仙ふれ墓	4 居士	男性		1822.0707		
61	伊仙町東伊仙 伊仙松山墓地	大居士	男性		1822.1000		
62	天城町天城 名須墓地	4 居士	男性		1823.0118		
63	伊仙町面縄古里 面縄墓地	5 居士	男性		1823.1103		
64	伊仙町阿権 阿権墓地	5 居士	男性		1824.0521		
65	天城町天城 名須墓地	4 居士	男性	宮山	1824.0526		
66	徳之島町徳和瀬 徳和瀬墓地	4 居士	男性	屋亘	1827.0711		
67	徳之島町轟 轟墓地	5 居士	男性		1827.0728		
68	伊仙町伊仙 手川墓地	5 居士	男性		1827.1004		
69	伊仙町東伊仙 伊仙松山墓地	4 大姉	女性		1827.1011		
70	伊仙町面縄古里 面縄墓地	4 居士	男性		1827.1121		
71	伊仙町阿権 阿権墓地	4 居士	男性		1829.1128		
72	徳之島町井之川 井之川墓地	4 大姉	女性		1830.0421		享年 30 歳
73	天城町天城 名須墓地	3 大姉	女性		1830.0620		
74	伊仙町伊仙納原 西伊仙ふれ墓	4 居士	男性		1832.0122		
75	天城町兼久 そう墓地	なし	不明		1832.0716		
76	天城町松原 松原墓地	4 居士	男性		1833.0800		
77	天城町兼久 そう墓地	なし	不明		1833.0829		
78	伊仙町伊仙 井竿墓地(イソバカ)	4 居士	男性		1833.1209		
79	伊仙町伊仙納原 西伊仙ふれ墓	4 大姉	女性		1834.0910		
80	天城町兼久 そう墓地	なし	不明		1835.0000		
81	伊仙町伊仙納原 西伊仙ふれ墓	4 大姉	女性		1837.0600		
82	伊仙町阿権 つんす墓地	4 居士	男性		1838.0114		
83	徳之島町下久志 下久志墓地	4 居士	男性		1838.0306		
84	徳之島町井之川 井之川墓地	4 大姉	女性		1838.0711		
85	伊仙町検福 赤久墓地	4 居士	男性		1839.1213		
86	伊仙町東伊仙 伊仙松山墓地	4 居士	男性		1840.0610		
87	伊仙町伊仙 井竿墓地(イソバカ)	4 居士	男性		1842.0508		
88	天城町瀬滝 じし墓	4 大姉	女性		1842.1108		
89	伊仙町検福 赤久墓地	4 大姉	女性		1843.0730		
90	伊仙町検福 赤久墓地	4 居士	男性		1843.1011		
91	伊仙町伊仙納原 西伊仙ふれ墓	4 大姉	女性		1843.1027		
92	徳之島町亀津 トヌチ墓	4 居士	男性		1844.0000		
93	天城町塩満 塩満墓地	4 居士	男性		1830-44		天保年間
94	天城町塩満 塩満墓地	4 大姉	女性		1830-44		天保年間
95	天城町兼久 そう墓地	なし	不明		1845.0008		
96	天城町兼久 そう墓地	不明	不明		1845.1204		
97	天城町兼久 そう墓地	なし	不明		1846.0000		
98	天城町塩満 塩満墓地	4 大姉	女性		1847.0000		
99	天城町兼久 はかんとう墓地	なし	不明		1847.0508		
100	天城町兼久 そう墓地	不明	不明		1847.0822		戒名削り取り
101	伊仙町東伊仙 伊仙松山墓地	軒 4 居士	男性		1848.0526		
102	天城町兼久 そう墓地	4 大姉	女性		1848.0912		
103	伊仙町伊仙 井竿墓地(イソバカ)	4 大姉	女性		1848.0921		
104	伊仙町阿権 とうやま墓地	釈尼 2 大姉	女性		1849.0000		
105	天城町兼久 あがれ墓地	不明	不明		1849.0407		戒名削り取り
106	伊仙町目手久 目手久墓地	5 信士	男性		1850.0716		
107	伊仙町面縄古里 面縄墓地	4 大姉	女性		1851.0000		
108	天城町兼久 そう墓地	4 居士	男性		1853.0403		
109	伊仙町東伊仙 伊仙松山墓地	5 居士	男性		1853.0704		
110	天城町兼久 そう墓地	なし	不明		1853.1020		
111	伊仙町検福 赤久墓地	4 大姉	女性		1853.1223		
112	天城町兼久 そう墓地	なし	不明		1854.0000		伝鹿児島藩士墓
113	伊仙町上検福 トラグスク墓地	4 居士	男性		1854.0616		
114	伊仙町東伊仙 伊仙松山墓地	4 大姉	女性		1854.1018		
115	天城町兼久 そう墓地	不明	不明		1855.0927		戒名削り取り
116	徳之島町徳和瀬 徳和瀬墓地	4 居士	男性		1856.0622		
117	天城町兼久 はかんとう墓地	なし	不明		1856.0816		
118	伊仙町阿三 谷墓地	4 居士	男性		1856.1111		

表3-3 徳之島の近世墓標に刻まれた被供養者(3)

故人番号	所在地	戒名(略)	性別等	続柄・役職・俗名	没年	造立年	備考
119	天城町浅間 浅間墓地	4 居士	男性		1857.0000		
120	伊仙町伊仙納原 西伊仙ふれ墓	4 居士	男性		1857.0510		
121	伊仙町糸木名 糸木名南墓地	4 居士	男性		1857.0902		
122	伊仙町伊仙納原 西伊仙ふれ墓	4 大姉	女性		1857.0925		
123	伊仙町東伊仙 伊仙松山墓地	4 居士	男性		1858.0223		
124	伊仙町面縄古里 面縄墓地	4 居士	男性		1858.0314		
125	徳之島町徳和瀬 徳和瀬墓地	4 大姉	女性		1858.0827		
126	伊仙町伊仙納原 西伊仙ふれ墓	軒2 大姉	女性		1859.0000		
127	天城町兼久 あがれ墓地	4 居士	男性		1859.0123		
128	徳之島町山 ウキドウル墓地	4 居士	男性		1859.0727		
129	天城町塩満 塩満墓地	4 居士	男性		1854-1860		安政年間
130	天城町兼久 あがれ墓地	なし	不明		1861.0000		
131	伊仙町伊仙納原 西伊仙ふれ墓	4 大姉	女性		1861.1029		
132	伊仙町西伊仙 (宮勝墓)	なし	男性	惣横目喜念アツカイ 田地横目勤 宮嘉知	1862.0300		享年 60 歳
133	伊仙町伊仙納原 西伊仙ふれ墓	4 居士	男性		1863.0000		
134	徳之島町亀徳 亀徳墓地	3 大姉	女性		1863.0000		
135	徳之島町轟 轟墓地	4 大姉	女性		1863.0326		
136	徳之島町徳和瀬 徳和瀬墓地	4 大姉	女性		1864.0226		
137	徳之島町轟 轟墓地	7 居士	男性	濱田武右衛門尚春	1864.1020		
138	徳之島町井之川 井之川墓地	4 大姉	女性		1861-64		文久年間
139	徳之島町徳和瀬 徳和瀬墓地	4 大姉	女性		1865.0719		
140	天城町兼久 そう墓地	5 居士	男性		1866.0311		
141	伊仙町西伊仙 (宮勝墓)	なし	女性	目手久村野呂久目右 宮勝妻 女瀬加那	1867.0806		享年 66 歳
142	伊仙町東伊仙 伊仙松山墓地	4 居士	男性		1868.0609		
143	伊仙町西伊仙 (宮勝墓)	なし	男性	伊仙あつかい本津口横目 宮勝	不明		享年 70 歳